

平成28年度 大阪借星学園高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

人(生徒)は皆、星であり、生徒一人ひとりの個性を大切に、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていく。生きる力を養う教育、個性を大切にする教育、共生教育。

- ・ 常に教務の研鑽に努め、生徒一人ひとりの学力向上を図る。
- ・ 生徒の個性と人権を尊重し、全人的な教育を実践する。
- ・ 学園内の整備と美化に努め、より充実した教育環境を提供する。
- ・ 進学・就職など、卒業後の生徒の進路を全力でバックアップする。
- ・ 保護者の方々の意見を尊重し、学園運営に反映させる。

2 学校教育自己診断における結果と分析[平成28年11月 実施分]

※学校関係者評価委員会からの意見

例年通り、実施対象は全学年生徒、保護者とした。回答は無記名、質問はアンケートと自由記述で実施した。保護者の回答率はこの3年間で最も高かったが、肯定的と捉えることができるAとBの和がほとんどの項目で7割以上に達しており、8割・9割以上の回答も増えてきている。満足度はかなり向上していると言える。数値に関しても、この3年間で最も高かった。また、生徒の回答についても肯定的回答がほとんどである。しかしながら、保護者に比べると満足度は決して高くはなく、生徒からの意見を精査し、更なる向上に努めなければならない。
 回答率(回答数/在籍数)
 生徒 1年:95%(477/500)
 2年:98%(275/281)
 3年:100%(358/358)
 合計:97%(1110/1139)
 保護者 1年:91%(457/500)
 2年:95%(267/281)
 3年:99%(355/358)
 合計:95%(1079/1139)

【第1回】平成29年10月6日(金)

・ 経年比較から見ても、27年度から飛躍的に学校が丸となって取り組まれて安定期に入ってきていることがよく分かります。授業について、「授業がわかりやすい」という項目があるが、「わかりやすい」だけが評価指標にならないように、考えさせる授業をしている」「ICTを使って分かりやすい授業をしている」などの項目を作り、別途「授業アンケート」のようなものを生徒対象にしてみてもどうか。

・ 授業巡回に関しても、生徒は見られていると意識し、また先生方も他の先生方の授業を見ることで刺激にもなる。ICTを上手く使っている先生の授業も参考にしていける。

・ 遅刻指導に取り組まれていることは大変良いことだと思う。小学校のほうでも発言させてもらっているが、「遅刻をしてはいけない」という学校のルールを守ることと地域のルールを守るとは一緒である。それぞれの家庭環境の問題もあるが、そのルールをいとも簡単に破ってしまうことは、社会規範を守れないことにもつながっていくと考えています。

・ 生野区以外では、どこからの生徒が多いのか？
 → 堺市や岸和田市など南部からの生徒が多いです。また、大阪市内についても南部の生徒が多い状況です。

3 本年度の取組内容及び自己評価

本年度の重点目標	具体的な取組み内容	評価指標	取組内容の自己評価
取組① 学力の充実と進路希望の実現	①授業を確立し、生徒たちにとって、「わかりやすい授業」をする。授業巡回を通して、学年から教科主任への連絡を密にする。また、教科会議において、授業内容と生徒たちの達成度を確認する。 ②国公立大学・関西12大学の合格者数を昨年度以上に確保するとともに、進路決定率100%を目指す。総合選択コースで公募制推薦入試合格の可能性のある生徒に対して、夏期補習等を実施する。	・ 学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答70%以上 ・ 最終進路決定	①学校評価アンケート「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的回答は69%であった。1年生で71%、2年生で71%、3年生で63%であった。3年生での肯定的回答が低いため、特に3年生については、常に教科で達成度や内容の確認をしていく必要がある。 ②全体の合格者数は昨年度より増加した【国公立大学等(2→10名)、関西12大学(147→164名)】。総合コースの合格数も昨年度より増加した【関西12大学(23→41名)】。進路決定率は93.0%。今年度在籍355名のうち、大学進学199名(56.1%)、短大進学12名(3.4%)、専門学校進学67名(18.9%)、各種学校進学6名(1.7%)、就職45名(12.7%)、留学1名(0.3%)で、決定率は93.0%であった。一昨年度は90.6%、昨年度は92.7%であったので、決定率は増加傾向にある。しかし、依然として、進路実現に対する意識の低い生徒等がいるのも事実である。今後も各部や学年と協力し、学校全体の取組みとして、学年やコースの特性に応じた進路に関する意識付けや情報提供等を、早期から計画的に実施する
取組② 生徒指導の充実	①全教員によるきめ細かい生活指導・マナー(モラル)指導。毎日の登下校指導・遅刻防止指導・身だしなみチェック・頭髪・服装指導・授業巡回・トイレ清掃チェック・各種講習会を実施する。	①毎月の頭髪違反率15%未満 ②毎月の遅刻率3%	①違反率の平均は8.9%であったが、6/34クラスが違反率15%を越えていた。 ②遅刻率の平均は2.6%であったが、11/34

			未満	クラスが遅刻率3%を越えていた。
			③身だしなみ・言葉遣い等の礼節指導の徹底	③身だしなみ・言葉遣いはまだまだできていない。
			④外部からの苦情を0に近づける	④外部からの苦情は30件であった。 今後も、意識的に全教員が指導にかかわる体制をつくっていくとともに、生徒自ら正しい行動ができるように、啓発する機会を増やす。
取 組 み ③	学校組織運営の活性化	・奨学金関連については、内容説明と対象者への通知の徹底と期日内提出の徹底、提出書類の内容確認の徹底を行う。 引き続き女子生徒比率を男子生徒比率に近づけていく。女子が増加した要因を分析し、その結果と状況を中学校や塾訪問時にしっかりと広報活動する。 特進コースは一次入試で募集定員を充足出来るよう進路実績や学内の取り組み状況を広報活動していく。進路実績をPRできる資料や合格体験記を作成し、中学校や塾に対して広報活動する。	・学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目での肯定的回答70%以上 女子比率4割以上確保する。 専願で40名確保する	①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目において、肯定的回答が80%であった。平成29年度進学者に対して一部先行実施された給付型奨学金について新たな制度理解が必要になり担当者と打ち合わせ等を行い上手くこなせた。今後も引き続き、奨学金の種類にかかわらず、生徒への連絡、保護者への対応等をより丁寧に行う。特に、3学年の日本学生支援機構の給付型の生徒へ徹底していく。 目標の4割には未達。しかし、3年前まで1割～2割代であったのに対し、この2年間は3割代の女子比率となっている。引き続き、各種広報誌で女子生徒のアピール。広報活動時に女子生徒が増加していることの影響づけをしていく。 目標の専願40名は達成。専願の学力層も向上している。ただし、入学生としては、募集定員に対して4名不足となった。進路実績の変化については、浸透しつつある。あとは、結果に結びつけるよう努力する。